

世界を動かすリーダー  
ダーへ

# 新渡戸 国際塾



公益財団法人 国際文化会館  
International House of Japan

第十期[最終年度]塾生募集要項

# 新渡戸国際塾とは

**国** 際文化会館は、日本ならびに日本人の国際的な存在感が希薄になっている現状に鑑み、次世代を担うリーダー育成を目的とした「新渡戸国際塾」を2008年に開校しました。

**本** 塾では、「国際性」と「リーダーシップ」という大きなテーマのもと、講師陣の豊かで先駆的な生き方や専門性から、多様な考え方と視点を学びます。地政学的・社会的変化によって世界秩序が大きく変動している今、異なる分野から集まる志高い仲間との切磋琢磨を通じ、より良い社会や未来のために、今後どのような生き方をしていくべきかを考える場やきっかけを提供します。

**最** 終年度となる十期は「揺らぐ国際秩序—来るべき世界の枠組み」について考えます。英国のEU離脱やトランプ大統領の誕生など、これまでの常識や価値観を見直さなければならない時代が到来しています。難題が山積し、新しい秩序が求められる中で、より良い社会に向けてのアクションについて考えます。第一線で活躍する講師を招いた講義のほか、鯖江(福井県)スタディツアーや研修合宿を実施し、塾生同士の議論やプレゼンテーションの機会を設けます。また、国内外で活躍する同世代や多様な背景を持つ人々との交流を深め、知的格闘する機会を創出します。塾生一人ひとりが、自分たちが今後取り組むべき問題について、多面的かつ多角的に議論することで、広い視野と公益の精神をもってさまざまな問題の理解と解決にあたるために必要な「知力」「実践力」「応用力」を養います。

## 新渡戸稲造とは

1862(文久2)年、南部藩士の三男として、現在の盛岡市に生まれる。札幌農学校を卒業後、東京大学在学中に、アメリカ、ドイツへ留学。帰国後、札幌農学校教授(日本初の農学博士号を受ける)、台湾総督府糖務局長などを経た後、第一高等学校校長、東京帝国大学教授、東京女子大学初代学長を歴任するなど、教育者として活躍。

1920(大正9)年、欧州視察中に国際連盟事務次長に推薦され、就任。在任中には、国際連盟の国際知的協力委員会(ユネスコの前身)の創設に携わるなど、連盟の発展に寄与した。代表的な著作である『BUSHIDO:The Soul of Japan』(『武士道』)は、日本文化の優れた紹介書として各国語に翻訳され、現在も版を重ねている。



(写真提供: 教文館)

## 塾長メッセージ



### 明石 康

新渡戸国際塾 塾長/  
国際文化会館 理事長

国境がこれほど低くなった今の時代に、国際場で活躍できる人材が少ない日本の現状は、看過できるものではない。本塾の活動がそうした人材を生み出し、元気づける要因となることを期待してやまない。

大来佐武郎氏が言ったように、「国際人」というものがあるとすれば、それは外国の人々と一緒に、違和感なく自然体で仕事ができる人のことを言うのだろう。国際関係を抽象的に物知り顔で語るのではなく、広く内外でのびのび動き、評価される実践型・対話型の人材が、どしどし出てきてほしいものだ。

広い視野と公益の精神をもって  
国際社会に貢献できるリーダーを育てる

## コーディネーターより



### 渡辺 靖

コーディネーター/  
慶應義塾大学  
SFC教授

国際文化会館は、渋沢栄一記念財団とMRAハウスのご支援を得て、2008年に「新渡戸国際塾」を設立し、これまでに127名の優れた次世代リーダーを輩出してきました。各界の第一線で活躍する講師との深い対話を通して「あるがままの世界」と「あるべき世界」への認識を深め、かつ同窓生とのネットワークを通して、塾生の皆さんの今後のキャリア展開の一助になることを期待しています。

「小さくまとまりたくない」という思いを秘めた、志の高い方々を第十期塾生としてお迎えできることを楽しみにしています。

## 運営委員

- ・小川忠(国際交流基金企画部長)
- ・近藤正晃ジェームス(マサチューセッツ工科大学客員サイエンティスト)
- ・千野境子(産経新聞客員論説委員)
- (五十音順) ・渡辺靖(慶應義塾大学SFC教授)

# 新渡戸リーダー シップフェロー

修了後は、新渡戸リーダーシップフェローとして現在  
多様なバックグラウンドを持つ志高いフェローたちと、  
自らの考えを練り上げていくことで、共に支え、  
塾生公募は第十期をもって終了します。

127名の修了生を有するネットワークの一員となります。  
意見をぶつけ合ったり知識や情報の交換をし、  
高め合ってゆくことを期待しています。  
今回がフェローになるラストチャンスです！

## 一期から九期生にとっての「新渡戸国際塾」は・・・

自分の無知を気付かせてくれ、  
慣れ親しんだ世界から  
一步外に出ることを促してくれた  
木村 圭佑(三菱商事)

価値観をぶつけ合い、  
厳しい言葉に肩を落としながら帰ったことも  
思えば「もっと目線を上げなさい」という  
叱咤激励だった  
細見 建輔(コンサルティング会社)

日本に留まらず、米国、カナダ、  
中国、インドの若者も同期であったが、  
これほど愛国の志高かつ国際性を有した  
若人の集まりを私は知らない  
榎本 雄一朗(金融庁)

自身の思いを仲間に伝え、  
強み・弱みを客観視する絶好の場  
梁田 智仁(富士通)

インプットとディスカッションを掘り下げてゆくと、  
どのアジェンダからも  
人類の普遍的なテーマを必ず発見できる  
柴田 堯(日産自動車)

より良い社会を目指す  
純粋なモチベーションを高め合える場であり、  
アクションも即起こせるクリエイティブな集まり  
阿部 千依(上智大学)

6ヵ月という短くも濃い時間の中で、  
高くて広い視点、  
一人では持ち得なかった多様な興味や関心、  
学ぶ姿勢、そして仲間を得た  
清水 恵(サービス業)

自ら設定してしまった  
限界を取り払ってくれた  
日下 芳朗(金融機関)

世界を見る目を養うには  
自分の専門以外の知識を習得し、  
幅広い視点から判断することが大切だと学んだ  
呂 衍姝(メーカー)

漠とした不安感・不満を、自分自身が取り組み  
解決していくべき課題へと変えていくプロセス  
宇井 理人(金融機関)

自分では知ることのできない「世界」を、  
講師たちの磨き上げられた「窓」と、  
同期の15の個性的な「窓」を通じて追体験できる  
山崎 貴弘(特定非営利活動法人MPI)

遠くを視る知見と志を共有する仲間が重なると、  
自分から一番遠いと思ったところに光がある  
中西 玲人(外国政府機関)

# 第十期講師 & カリキュラム

さまざまな視点や角度から新しい世界を切り拓き、活躍されている多彩な講師をお迎えます。

第1回 6月17日(土)

## 開講式&オリエンテーション

第2回 7月1日(土)

渋澤 健

コムズ投信株式会社取締役会長、公益財団法人渋沢栄一記念財団業務執行理事

渋澤  
史料館

「格差社会」を生んだ資本主義は終焉すべきという論調が絶えません。「日本資本主義の父」渋沢栄一は資本主義こそ民間力を通じて未来を拓く人間の智恵であると信じ、幕末から明治にかけて新しい社会の創造を目指しました。栄一翁の生き方や思想をたどりながら、資本主義の原点を学び、21世紀の資本主義について再考します。



第3回 7月15日(土)

## スタディツアー事前勉強会

第4回 7月22日(土)~23日(日)

## 鯖江スタディツアー

眼鏡をはじめ、繊維や漆器産業など古くから「ものづくりのまち」として発展してきた福井県鯖江市。近年では、中国製品の台頭や少子高齢化という日本全体が直面する課題にユニークな取組みでいち早く対応し、国内のみならず世界からも注目されています。現地で成長分野へ進出する企業支援や「世界にはばたくめがねのまちさばえ」の地域ブランド力向上への取組みを学びます。

牧野 百男

福井県鯖江市長

「地方から国を変える」という強い志を持ち、新しいことに挑戦し続ける牧野市長は、常に市民の声を聞くことを何よりも重視する市民参加型のまちづくりを目指しています。抜群のリーダーシップと決断力で民主主義を市政で実践している氏に、鯖江モデルから日本の目指すべき未来についてお話しいたします。



第5回 8月5日(土)

佐伯 啓思

京大名誉教授

公開

戦後70年、平和と安定を求めてきたはずの世界は今、テロの横行やポピュリズムの台頭に直面しています。私たちが追い求めてきた「民主主義」とは果たして何だったのか。「国」のもっとも根幹にかかわるこの概念について、これまでの常識を捉え直し、今の時代・世界にあった「新しい枠組みや秩序」の可能性について考察します。



第6回 8月26日(土)

明石 康

新渡戸国際塾塾長、国際文化会館理事長

時宜を得たテーマを選び、塾長と「討議」します。



第7回 9月9日(土)

## 特別プログラム

第8回 9月23日(土)~24日(日)

## 研修合宿 (清里:清泉寮)

合宿

渡辺 靖

新渡戸国際塾コーディネーター、慶應義塾大学SFC教授

グローバル化や技術革新によって世界が大変革を遂げるなか、既存の政治や経済、社会システムの秩序や枠組みが根底から覆される出来事に直面しています。この混乱の時代に、私たちは今後どのような未来をつくるのか。多面的かつ巨視的な視点と、自らの属するセクターという身近な視点の両方から世界を捉え直し、議論します。



# 第十期講師 &

# カリキュラム

第9回 10月7日(土)

ゲスト講師を招いての公開講演および討議

公開

第10回 10月15日(日)

在京外国人との対話

滞日中の外国人フェローと討議します。

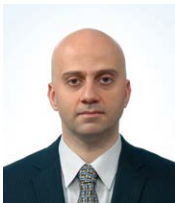
第11回 10月28日(土)

ナジブ・エルカシュ

ジャーナリスト、リサーラー・メディア代表

公開

2011年にアラブ地域に広がった「アラブの春」。シリアにおけるこの民主化運動は、なぜ国民の半数以上が難民となる「内戦」にまで発展したのか。シリア人ジャーナリストのエルカシュ氏に、シリアの「理想」と「現実」について、また国際社会が今後、アラブ地域の安定のために果たすべき役割についてお話しいただきます。



第12回 11月4日(土)

青木 涼子

能×現代音楽アーティスト

公開

能という、武士の庇護を受けて発展してきた“男性の世界”で、家元の家系でもなく、女性でありながら能を学び、現在世界を舞台に活躍する青木氏。既存の枠組みの中にいらなかったからこそ、違う枠組みを探し求めてきたといえます。欧米を中心に現代音楽とのコラボレーションなどを通して“新しい表現者”を目指す青木氏にお話を伺います。



第13回 11月18日(土)

毛丹青(マオ・タンチン)

作家、神戸国際大学教授

公開

尖閣諸島をめぐり日中関係が冷え込んだ直後に、日本の文化や暮らしを中国人に紹介して話題となった月刊誌「知日」。その主筆を務め、2016年には在日中国人の目を通して日本を伝える雑誌「在日本」を創刊し、これまでとは全く違う角度や視点で日中関係を見つめる毛教授に、新たな関係構築の担い手となる塾生世代に向けてお話しいただきます。



第14回 12月2日(土)

修了式

修了証書の授与・塾生によるプレゼンテーション

## 講義時間割

時間	内容	参加者
1:30~2:30 pm	講師による講義	「公開」の回は、 一般公開
2:30~3:00 pm	質疑応答	
3:00~3:20 pm	休憩	
3:20~5:30 pm	講師と塾生による自由討議	塾生のみ

※プログラムや日程は、やむを得ない事情により変更になる場合があります。

公開講座の様子



討議の様子



## 募集要項

期 間	2017年6月～12月 (全14回、主に週末1:30～5:30 pmに開催)
対 象	国際的な視野からの社会貢献に関心を持ち、ダボス会議など国際舞台での活躍や飛躍を目指す方。実現したい具体的なプロジェクトやアイデアをお持ちの方。最低5年の実務経験がある40歳までの方。英語で議論でき、全回出席可能な方。業種や職種、国籍は問いません。
定 員	15名程度 (願書と小論文による書類審査および面接[日・英]により選考)
受 講 料	72,000円(税込)(スタディツアーおよび研修合宿の費用含む)

## 応募要領

以下の応募書類を、事務局まで郵送またはEメールでお送りください。

願 書	所定書式を「新渡戸国際塾」ウェブサイトからダウンロードしてください。*
小 論 文	日本語2,000字以内または英語1,000～1,200 wordsをA4用紙に印字すること。 なお、日本語で作成の場合には英語の要旨(250～300 words)を、英語で作成の場合には日本語の要旨(500字以内)を添付すること。
テ ー マ	世界規模の課題に対して、10年後までにどのような貢献をしていきたいか、またそのために今、何をしているかについて、人生を通して世の中のために何を成し遂げたいと考えているのかにも触れながら具体的に書いてください。

### 応募書類送付先

郵 送:〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16  
E-mail:nitobejuku\_ihj@i-house.or.jp  
国際文化会館 企画部「新渡戸国際塾」事務局

\*書類のダウンロードができない環境の方には郵送します。事務局までご連絡ください。

## 選考要領

願書締切	2017年 5月8日(月) 5:00 pm必着
書類選考	書類選考通過者には、5月19日(金)頃までに面接日をお知らせします。
面 接	5月27日(土)、28日(日)のいずれか(国際文化会館にて実施)
塾生決定通知	選考の最終結果は、6月2日(金)までにお知らせします。

## 説明会

4月12日(水) 7:00 pmより国際文化会館にて  
「募集説明会」を実施します。

参加ご希望の方は事務局までご連絡ください。

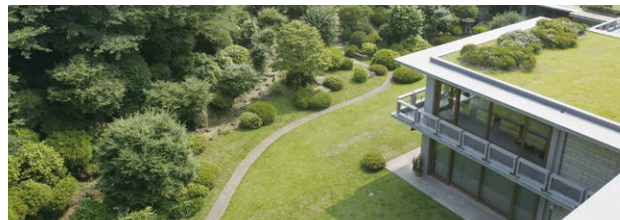
### 応募・選考に関するお問い合わせ

公益財団法人 国際文化会館  
企画部(月～金 9:00 am～5:00 pm)  
〒106-0032 東京都港区六本木5-11-16  
電話:03-3470-3211 FAX:03-3470-3170  
E-mail:nitobejuku\_ihj@i-house.or.jp  
URL:www.i-house.or.jp



「新渡戸国際塾」ウェブサイト  
www.i-house.or.jp/programs/activities/nitobejuku

## 国際文化会館とは



公益財団法人国際文化会館は、日本と世界の人々との文化交流と知的協力を通じて国際相互理解の増進をはかることを目的に、1952年にロックフェラー財団をはじめとする内外の諸団体や個人からの支援により設立された非営利の民間団体です。

樺山愛輔、前田多門、高木八尺(やさか)、松本重治など、会館の創設に中心的な役割を果たした人々の多くは、旧制第一高等学校、国際連盟「国際知的協力委員会」、太平洋問題調査会などを通じて、新渡戸稲造博士から大きな感化を受けました。

創設者たちと新渡戸博士の強い精神的絆は、今日に至るまで国際文化会館の底流として受け継がれており、本塾を「新渡戸国際塾」と命名しました。

## 地図・アクセス



- 都営大江戸線 麻布十番駅(7番出口)より徒歩5分
- 東京メトロ南北線 麻布十番駅(4番出口)より徒歩8分
- 東京メトロ日比谷線 六本木駅(3番出口)より徒歩10分